九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[009] 総合文化学論輯表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2552916

出版情報：総合文化学論輯. 9, 2018-11-01. 総合文化学研究所
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

総合文化学会活動記録　2018.5.1—2018.11.1

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第 8 号刊行　2018.5.1

第 13 回総合文化学会

日時：2018 年 5 月 6 日（日）　午前 10 時～午前 11 時 45 分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス研修室 D

１．ご挨拶・ご連絡

２．口頭発表

①

発表者：

佐藤慶治(精華女子短期大学幼児保育学科専任講師・音楽教育学、比較文化学)

発表タイトル：NHK 音楽番組「みんなのうた」における翻訳と音楽ジャンル形成
－「大人向け楽曲」の取り入れという視点に基づいて

発表要旨：

本研究の目的は、NHK の音楽番組「みんなのうた」について、翻訳を中心とした実証的考察を行い、日本音楽文化の研究に新たな視点を加える事である。「みんなのうた」においては、最初期の 1960 年代～70 年代前半に、海外の楽曲に日本語の歌詞を付けた「翻訳歌」が多く扱われている。例えば小学校の音楽科教材にもなった《線路はつづくよ》の原曲は、アメリカの線路建設現場で働くアイルランド移民たちの労働歌であり、性的な歌詞も含まれる大人向けの楽曲であった。そのような楽曲と原曲とを比較分析することによって、その差異から「みんなのうた」の目的を分析することができると考えている。

②

発表者：

山﨑浩隆（熊本大学教育学部音楽科准教授・教科教育）

発表タイトル：旋律をもとに思いや意図を表現する歌唱学習
－小学 4 年「ゆかいに歩けば」の実践を通して－

発表要旨：

音楽表現では子どもたちが思いや意図をもって表現し、表現の主体者とすることが大切である。現在行われている歌唱学習は、歌詞の内容を理解させ子どもたちの思いや意図をそれに反映させるものがほとんどである。しかし、ピアノや吹奏楽のように音楽を表現するにあたり歌詞のない器楽曲と関わる子ども増えることが考えられる。器楽曲においても表現の主体者にするためには歌詞ではなく旋律をもとにした学習指導が必要だと考えた。そこで、旋律をもとに思いや意図をもたせる方法を提案し、実践記録からその効果を考察する。

第 14 回総合文化学会

日時：2018 年 7 月 14 日（土）　午前 10 時～午前 11 時 45 分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス研修室Ｆ

１．ご挨拶・ご連絡

２．口頭発表

発表者：井上博子（小田原短期大学保育学科通信教育課程特任准教授・音楽教育学)

発表タイトル：

少年合唱における変声に関する一考察　―我が国とドイツの事例を通して―

発表要旨：

本研究は、我が国における変声期研究の歴史を概観したもので、少年合唱に関する基礎資料を拡大することを目的としている。その際、我が国においては明治期以来音楽教育の範をドイツに求めてきたという歴史的背景に基づき、ドイツの少年合唱団における事例を参照し、比較考察している。変声に対する対応は、時代によってどのように変わったのか、また我が国とドイツでは、どのように共通するのか。または、異なるのか。長きにわたって研究されてきた少年の変声という限りない課題の一端を、変声の捉え方とその対応という視点から分析したものである。

第 15 回総合文化学会

日時：2018 年 8 月 18 日（土）　午前 10 時～午前 11 時 45 分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス視聴覚室

１．ご挨拶・ご連絡

２．口頭発表

発表者：壬生正博（福岡歯科大学教授・イギリス文学・比較思想）

発表タイトル：

中世イギリスのヘレフォード世界地図に見る特異な世界観について

発表要旨：

13 世紀後期にイギリスで制作された世界地図（Hereford Mappa Mundi）は、聖地エルサレムを世界の中心とするキリスト教的世界観を基盤としているが、その一方で、ヨーロッパから離れたアジア地域には古代ギリシア、ローマ等の説話をもとにした奇怪な人種や珍獣等が棲んでおり、特異な世界観をもっている。発表では、ほぼ同時期に創作された『マンデヴィル旅行記』、マルコ・ポーロの『東方見聞録』、その他の作品等を参照しながら、この世界地図の極東にある地上の楽園の見方等について考察を試みたい。

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第 9 号刊行　2018.11.1